

編集後記

最近のテレビ及び新聞はアメリカ及びソ連の経済水域二〇〇カイリ宣言問題を取上げない日のないくらい社会を賑わしている。たしかにこれらの問題は

漁業者は勿論、一般国民に至るまで、あだやおろそかにすまされる事ではない。すでに最近では早、その影響がもろに我々の食卓の上に至るのしかかつて来ており誠に由々しき問題である。

三月に行なわれるであろう日ソ漁業交渉では、この二〇〇カイリ問題が当然論議されようが、沖合漁業依存への見通しが暗くなつて来た現在、さけ・ますふ化事業への期待は重大な意味をもつものになるだろう。

○ ○ この様な問題の中に、昭和五十二年度の予算は、我々としては可成りののびを期待したが、政府は景気の回復と生活の安定

を図る意図から公共事業の拡充に主眼をおき、二〇〇カイリ対策、沿岸漁業の振興経費はわずかなものにおちついた、なお当場の予算は総額一一億一、六〇九万円となり、一〇億の万台を超えたものの主なのびは施設費の前年の倍額である。

○ ○ 昨年、アメリカ・ワシントン州のふ化場へ我が国として初めて、シロサケ種卵五〇〇万粒を移植したが、この折、同卵に同行して広くアメリカのふ化事業を視察して来た。調査課の広井技官より同州のふ化施設・規模、経緯について論稿を頂くことが出来た。「井の中の蛙、大海を知らず」、我々は得てして、自分の行なっていることが一番良しとしているくらいがある。○ ○ 広井氏の論稿より大いに他国のふ化事業にも目を向ける必要があろう。

○ ○ 五十一年度の捕獲採卵事業が二月上旬で終了した。世間では

今年是不漁であったと噂さされているようだが、昨年の未曾有の記録を基にしての事で五十一年も史上三番目の記録、人工ふ化事業も技術向上と相俟つて給餌放流の結果が一、〇〇〇万尾台来遊持続の成果であらう。

○ ○ 五十一年度に次の四氏が(田口留治郎、富田竹雄、卯都木三郎、北川克己)ふ化場を去られた、本当に長い間、私達の先輩として、又、良き指導者としてふ化事業に専心され御苦労様でした。今後共、後輩の指導及御叱責をよろしくお願いいたしますと共に末長い御健康を祈念致します。

○ ○ 遂に本年度も本誌一号だけの発行となつてしまいました。前年も同じ事をお詫び致しましたが、明年こそはと編集委員一同反省致しておりますので、読者の皆々様の奮つての御投稿を偏にお願い致します。(I・M)

「魚と卵」編集委員会

農林技官	大	西	勝	弘	農林技官	足	田	豊	彦
農林技官	薫	田	道	雄	農林技官	田	中	哲	彦
農林技官	三	浦		巖					

札幌市豊平区中の島 (TEL 代表 (822) 2131)

発行 水産庁北海道さけ・ますふ化場 場長 西 野 一 彦
印刷 社団法人 北海道印刷紙工事業協会

昭和52年 3 月18日 印刷
昭和52年 3 月25日 発行 第27卷 第

印刷 社団法人 北海道印刷紙工事業協会